

主体的に考えを深める ツールとしての活用

(6年 Unit 7 My Best Memory)

幡井 理恵 昭和女子大学附属昭和小学校教諭

昭和女子大学附属昭和小学校では、すべての教科学習の中心に「伝え合うことば」を据え、自分の考えを言葉で説明し、相手の言葉を聞き、よりよい解を得る喜びを重視してきました。

そんな思いを英語の授業でも実現したいと考え、学習者用デジタル教科書+教材(以下、デジタル教科書)を有効に活用した実践を模索しています。今回は、昨年12月に行った6年生の授業をご紹介します。プレゼンテーションの活動を通して、児童が主体的に話し方、聞き方について考えを深めていくことを目的としました。

●この日の授業の流れ

1. Review

・Let's listen. (p.82)に取り組む。

2. 目標の確認

・本時の目標「発表を楽しむために、よい話し手と聞き手になるためにはどうすればよいか」を確認する。

3. Mission 1 To be a good listener

・Good listenerとしてのResponse(ジェスチャーや相づち、ほめる言葉)を学ぶ。

4. Mission 2 To be a good speaker

・「世界の友達」(p.92-93)を全員で視聴し、発表のよいところについて気づいたことを書き出す。

5. グループでプレゼンテーションの練習

6. プレゼンテーションをする

デジタル教科書を使用するポイント

ポイント① Review

- デジタル教科書のLet's listen. (p.82)をプロジェクターで投影し、クラス全体で登場人物を確認し、学習活動の方法を指示。
- 児童は、Let's listen. に取り組み、自分のデジタル教科書に直接答えを書き込む。学習者用デジタル教科書へは、タッチペンで書き込むこともでき、画面をピンチアウトして指を使って大きな文字で書き込むこともできる。



- 音声再生には速度調節機能があるので、児童はイヤホンを使って、それぞれが聞き取りやすい速度で確認したり、一度停止したりして聞き返しながらか視聴することができる。

ポイント② Mission 2 To be a good speaker

- 電子黒板を使って「世界の友達」(p.92-93)のスピーチのうち一つをクラス全体で視聴し、活動のしかたを理解する。

- スピーチの内容だけではなく、発表のしかた(スピーチのよいところ)について、気づいたことを児童それぞれのデジタル教科書に「ふせん」機能を使って書き込んでいく。



ポイント③ プレゼンテーションの練習

- 「ふせん」に書き込んだことをもとに、グループで話し合いながら、プレゼンテーションで大切なことを共有する。
- ロイロノートを使って、共有した大切なことをもとに、プレゼンテーションの内容と手順をグループで話し合う。



ポイント④ プレゼンテーション

- タブレットでプレゼンテーションの様子を録画し、振り返りに活用する。教師とALTで、それぞれのグループの発表に不足している要素や、表現方法などを指導する。



【私のデジタル教科書活用法】

児童に教科書の学習活動に取り組ませる際、「教科書の○ページを開いてください。はい、やりましょう」では、何をどうやればいいのか児童が迷ってしまいます。デジタル教科書を使って学習する際の手順をプロジェクターを使って投影したり、児童各自のタブレットに配信したりすれば、

- ・最初にこれを見てください。
- ・次にここを聞きましょう。
- ・これについて感想を書いてください。

というように、ステップを踏んで学習を進めることができ、児童に余計な負担をかけずに学習を進めることができます。

また、家庭学習での活用にも有効です。例えば、児童が教室で初めて単語を学習するとき、覚える時間には個人差があります。デジタル教科書を使えば、自分の英語力に合わせて家庭で時間をかけて学習することができます。加えて、音声面の学習を大切にしている小学校外国語だからこそ、正しい発音を聞きながら学習を進めたいものです。それが家庭学習でできるのも、デジタル教科書のメリットです。

授業の様子をまとめた動画はこちらから。

